

学部4回生・大学院生のための
日本語文献探索のキソ

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

2021.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当

卒論・研究きちんとスタート！ シリーズのラインナップ

- ①学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ
必要と思われる文献の書誌情報を得る
- ②学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法
得た書誌情報をもとに実際に論文を入手する

本講習会の目標

学習目標1：先行研究調査とは何かを知り、その意義を説明できるようになる

学習目標2：「芋づる式」調査の方法を理解し、先行研究調査に活用できる

学習目標3：文献データベースの効果的な利用方法を理解し、先行研究調査に活用できる

本講習会の構成

- I. 先行研究調査とは何か
- II. 「芋づる式」による先行研究調査
- III. 文献データベースについて（概要）
- IV. 文献データベースによる日本語論文の先行研究調査－CiNii Articlesを事例に
- V. 文献データベースによる日本語図書の先行研究調査

I. 先行研究調査とは何か



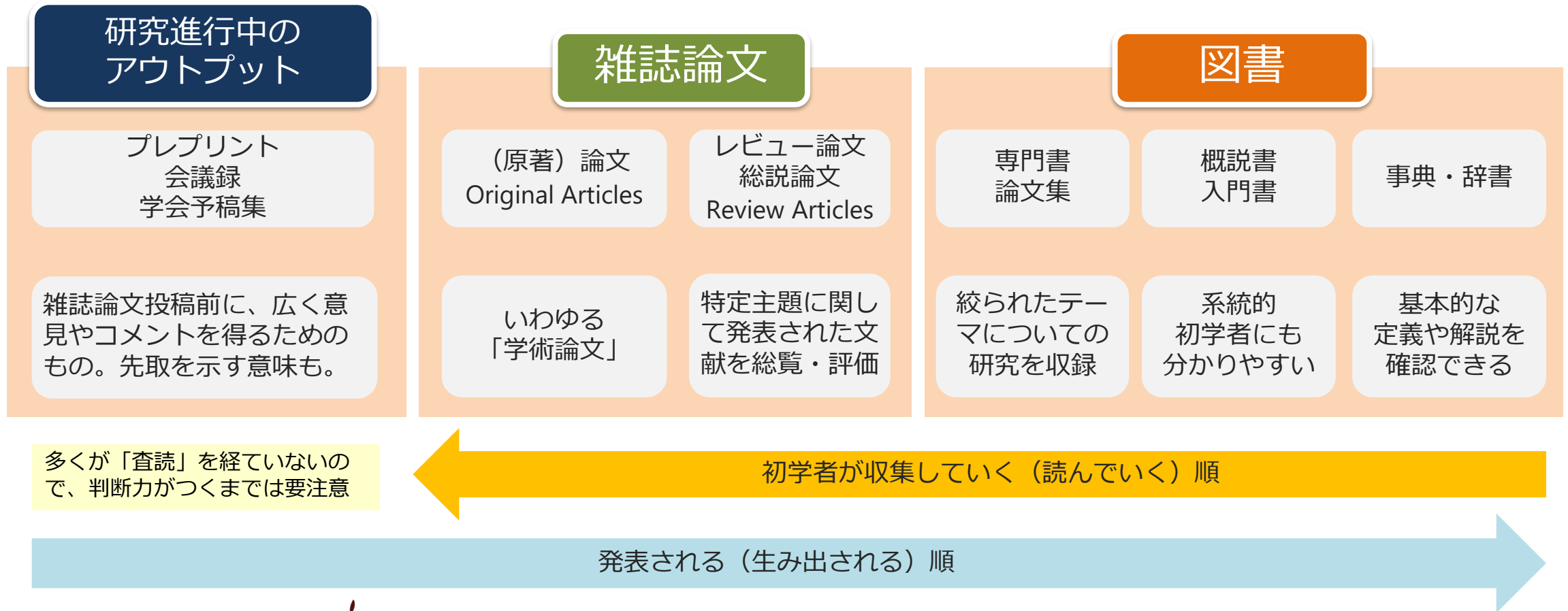
先行研究調査とは？

自分の研究したいテーマについて、
どのような研究がすでに為されているのかを把握すること

【手段】文献を「適切に」集めて読む

なぜならば、研究は、基本的に雑誌論文や学術書など「文献」の形で発表されるから。

研究の流れと学術文献の関係を意識して 使い分ける



文献の種類の違いを意識しながら、
場面に応じて適切なものを活用していくと良いです。

先行研究調査の意義：「学習者」として

自分の研究テーマ周辺の全体像をつかむ

学習として（既存の認識や専門用語を知る）

研究史を把握する

調査手段や分析手段を知る

事典類や概説書で、
定義や解説、研究史を理解する。

↓

専門書や論文で、
研究における実際の活用事例を知る。

先行研究の限界や問題点・意見が対立している点を整理する

自分の研究テーマを設定していく・絞っていくための大きな手掛かりとなる

⇒研究者としての意義にもつながる

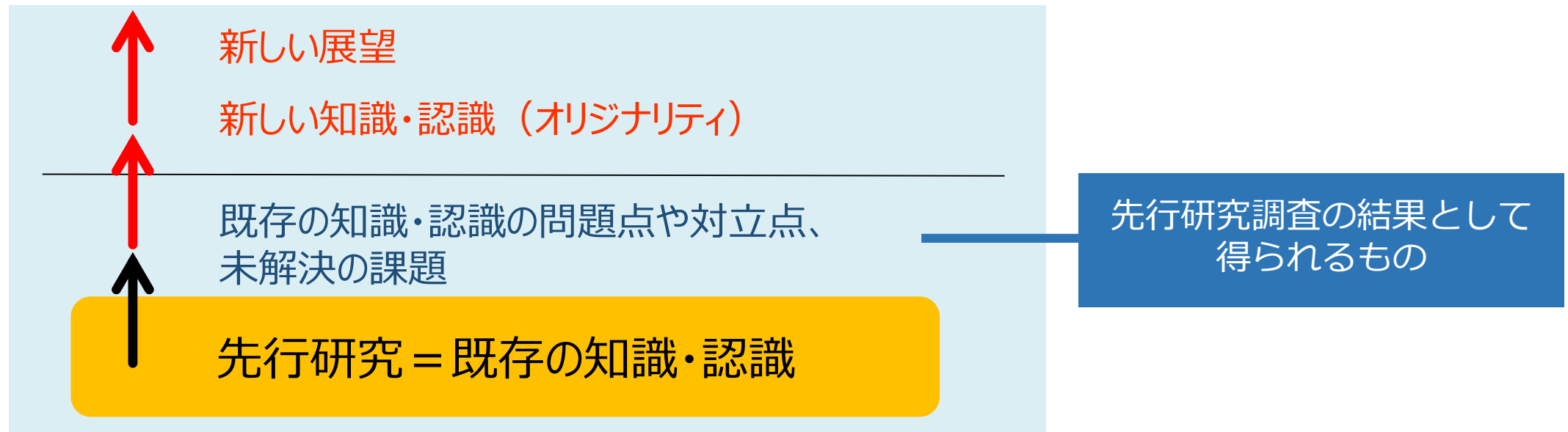
先行研究調査の意義：「研究者」として

自分の研究テーマが「新しい」ことを確認し、他者に示すために

研究 = 既存の知識・認識に新しい知識・認識を追加すること

「新しさ」もさまざま：事象として、理論として、切り口として

論文では、既存の知識・認識を示したうえで、「新しい」知識・認識を論証していく



2つのアプローチ

文献データベースによる検索

キーワードを使って、文献情報を検索する

メリット：適切に活用すれば、多くの文献を発見可能

デメリット：使い方を誤ると、見逃しが多く発生する

参考文献をたどる[芋づる式]

注目した論文を軸に、引用をたどっていく

メリット：研究の流れを掴みやすく、理解を広げやすい

デメリット：参照関係に含まれていない関連文献を見落とす可能性

II. 「芋づる式」による 先行研究調査

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

2021.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当

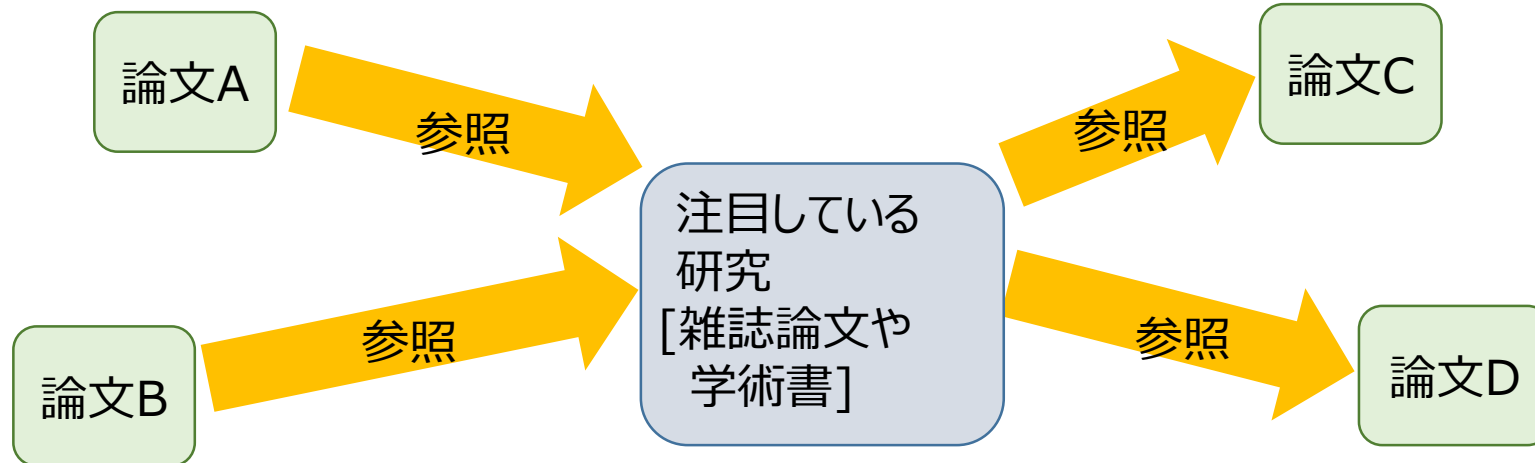


芽づる式：“連なり”としての研究

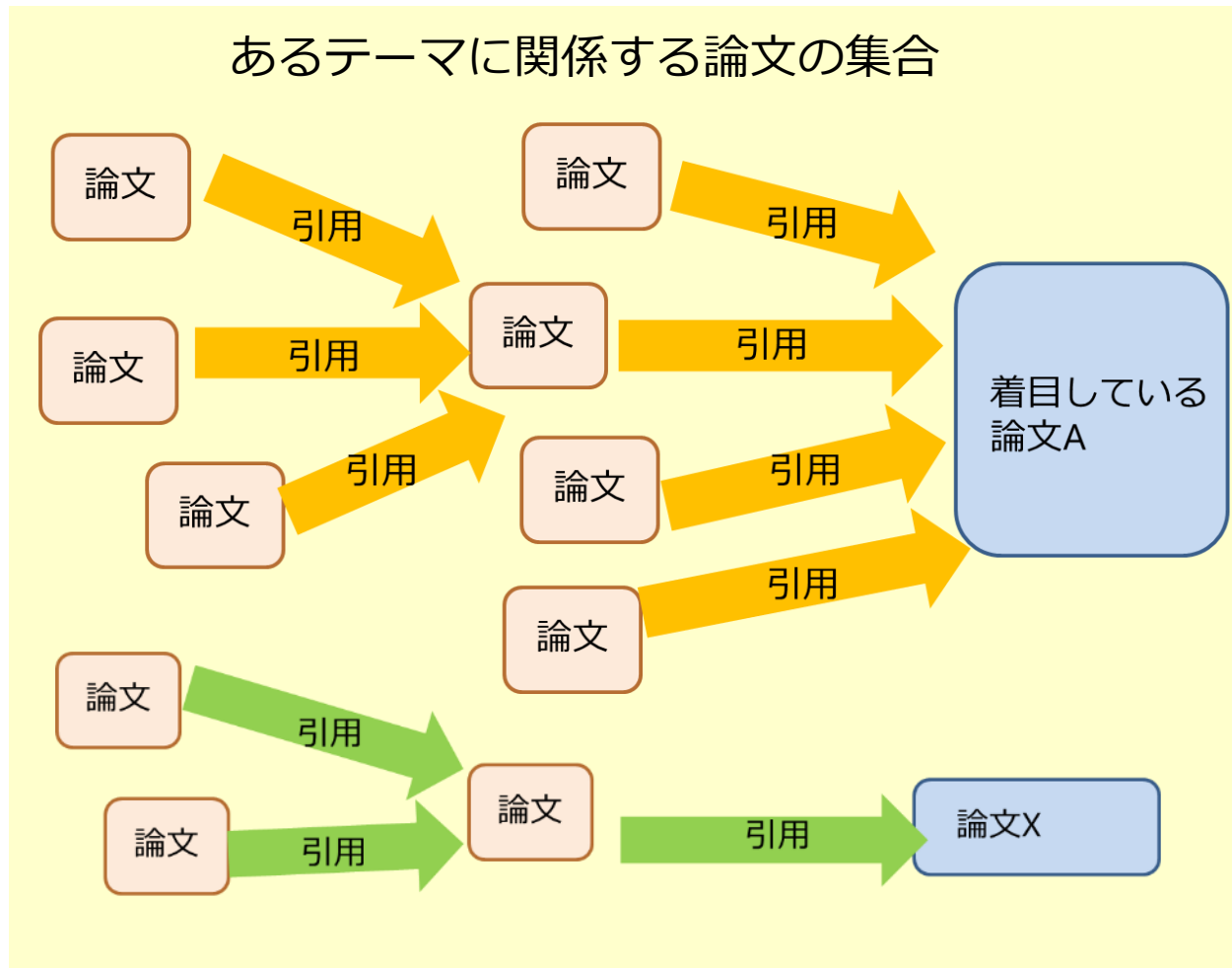
研究は独立しては存在しないもの

これまでの研究の積み重ねがあって、新しい研究が生まれる

参照した先行研究は、**注や参考文献リスト**として明示するのがルール



芋づる式：強みとその限界



強み：

無駄無く、過去の関連研究へ遡ることができる

限界：

①文献リストに挙げられていない関連研究を見逃してしまう

②着目した文献より後に発表された論文は別に探索する必要がある

研究初期段階における芋づる式の活用法

新しい文献からたどる

基本的に、新しい文献はそれまでの研究を踏まえている

専門的なテーマの論文からではなく、基本文献（次スライド以降参照）からたどる

そのテーマを大きく俯瞰して研究史を整理したような基本文献からたどり始めるほうが漏れが少ない

専門的なテーマの論文の文献リストは、その論文で踏まえるべき文献に予め絞り込まれている

どのような文献であっても、参考文献リストに掲載する文献の選別には、著者・編者の問題意識や評価が入ってきます。
1つの文献からの芋づる式調査ではどうしても漏れが生じるので、複数の文献を併せて活用するようにしましょう。



研究初期段階で起点とする基本文献

参考図書（事典・辞書・ハンドブック・便覧など）

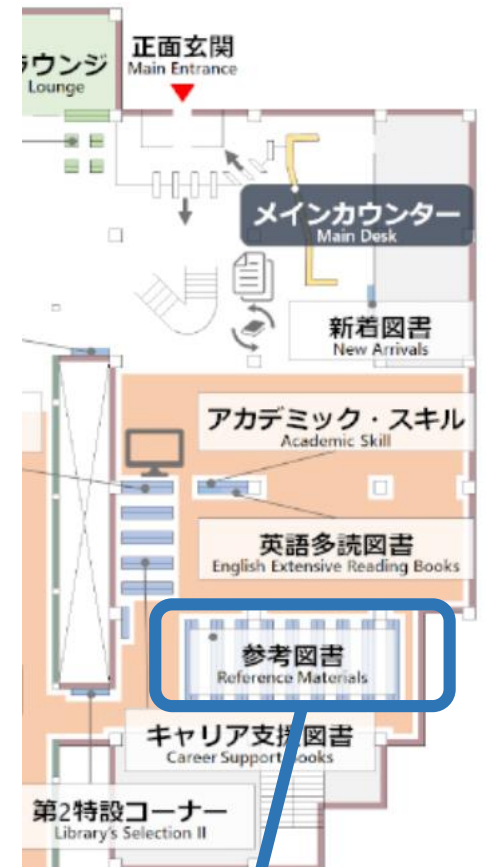
各項目の解説中の参考文献⇒そのテーマの基本文献の可能性が高い

参考図書の中でも、専門家コミュニティで編集されているもの（学会名で編集されている、各項目ごとに専門家が分担執筆している 等）がおすすめ

概説書・入門書

その分野の代表的な概説書・入門書に挙がっている参考文献

初学者向けの文献リストが用意されているものも



総合図書館内で、
参考図書はココ！

研究初期段階で起点とする基本文献

専門書

専門書の序章などで、研究史の整理がされていれば起点として有効

レビュー論文

そのテーマに関する文献を総覧・評価⇒多くの文献への起点となる

統一的な名称はないが、例えば「レビュー」「総説」「課題と展望」「現状と展望」「回顧と展望」といった論題が付けられている。雑誌によっては、定期的にレビュー論文が掲載されるものもある。

III. 文献データベースについて（概要）

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

2021.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当



GoogleやGoogle Scholarは 先行研究調査に向いていない

網羅性の問題

収録範囲が示されていない＝何を検索できているか分からない

⇔できるだけ広く文献を探したいという先行研究調査の趣旨との齟齬

検索性の問題

検索条件を細かく設定できない、並び替えや絞り込み機能の弱さ

書誌情報が整理されていない

正確な書誌情報が得られないと選別・入手作業へ進むのが難しい

とくにGoogleは、対象が学術情報（学術文献）に限定されていない

ノイズ（求めている情報＝ここでは学術文献で無いもの）がかなり多い

対象に応じてツールを使い分ける

学術文献の検索に特化したデータベースが多数存在する

利用が有料のものも多い。阪大で多数契約していて所属者は利用できる

学術文献も対象によって使う文献データベースが異なる

区分としては…研究分野、日本語文献と海外文献、図書と雑誌論文

使い分けの必要がある、というのは一般の情報検索と同じ

カレー屋を検索するサイトと、ホテルを検索するサイトは違う。

「学術文献」という対象の中でも、さまざまな検索サイト＝文献データベースがある
ということ意識する。

文献データベースの機能

文献データベースのメイン機能

文献情報（＝書誌情報）を収集・整理して提供すること

付加価値としてのPDFファイルやフルテキストリンク

あくまでそのデータベースが提供できる範囲でのファイルやリンク

大阪大学で読むことができる論文が、全て利用できるようになっていない

大阪大学で読むことができる論文＝良い論文とも限らない

先行研究調査では、検索と入手を切り分けて考えよう！

文献データベースでは、まず「検索」に専念し、書誌情報を得る

IV.文献データベースによる 日本語論文の先行研究調査 —CiNii Articlesを事例に



適切なデータベースの選択：雑誌論文

全分野型 or 特定分野 / 日本語文献 or 海外文献 のマトリクス

分野	国内論文	海外論文
全分野	CiNii Articles	Web of Science Scopus
国文学	国文学論文目録データベース	
日本語学	日本語研究・日本語教育文献データベース	
経済学		EconLit
教育学	教育研究論文索引	ERIC
社会学		SocINDEX
医学	医中誌Web	MEDLINE
自然科学・工学	J-DreamIII	

特定分野のデータベースの
ほうが一般的に、
・その分野に関して、収録論文が多い
・より高度な検索が可能
(シソーラス等⇒補遺参照)

これらは一例です。
附属図書館Webサイトの
データベース一覧を一度
チェックしてみてください。

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/dblist/>

CiNii Articles とは

日本語論文を探すための文献データベースの代表格

主に日本語の雑誌論文が対象
分野を限定せず、幅広く収録
検索機能は残念ながら強くないので、
工夫して利用する必要がある（後述）



<https://ci.nii.ac.jp/>

具体例としてCiNii Articlesを使う理由

とくに人文社会科学系では特定分野型の日本語論文データベースが無い分野がほとんどで、実質的にCiNii Articles一択であるため
この後紹介する検索の考え方は他のデータベースを利用する際にも通じる

検索例題

SNSとヘイトスピーチの関係性についての先行研究調査

—対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみ

論文検索	著者検索	全文検索
SNS ヘイトスピーチ		
検索		
すべて	本文あり	▽ 詳細検索

「SNS ヘイトスピーチ」で検索
→4件しかヒットしない。

もっと文献がありそうな気がするのだけれど…



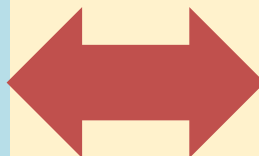
ポイント1：データベースの検索方式

CiNii Articlesは単純なキーワード検索方式

検索窓に入れた言葉と、論文タイトルなどで使われている言葉が完全に一致すれば、検索結果として返ってくる。

<CiNii Articlesの場合>

検索窓に入れた言葉



- 論文のタイトル
- 雑誌名
- 著者の情報
- △ 抄録（一部の論文のみヒット）
- × 本文

ポイント1：データベースの検索方式

完全に一致しないとヒットしないとはどういうことか

例えば以下の論文だと…

「SNS ヘイトスピーチ」→ヒットしない

「ツイッター ヘイトスピーチ」→ヒットしない

「twitter ヘイトスピーチ」→ヒットする

人の目で見れば、
関係のある論文なのは明らかなのに…



品詞タグを利用したTwitterにおけるヘイトスピーチの検出 (知的環境とセンサネットワーク)

渡辺 創, Bouazizi Mondher, 大槻 知明

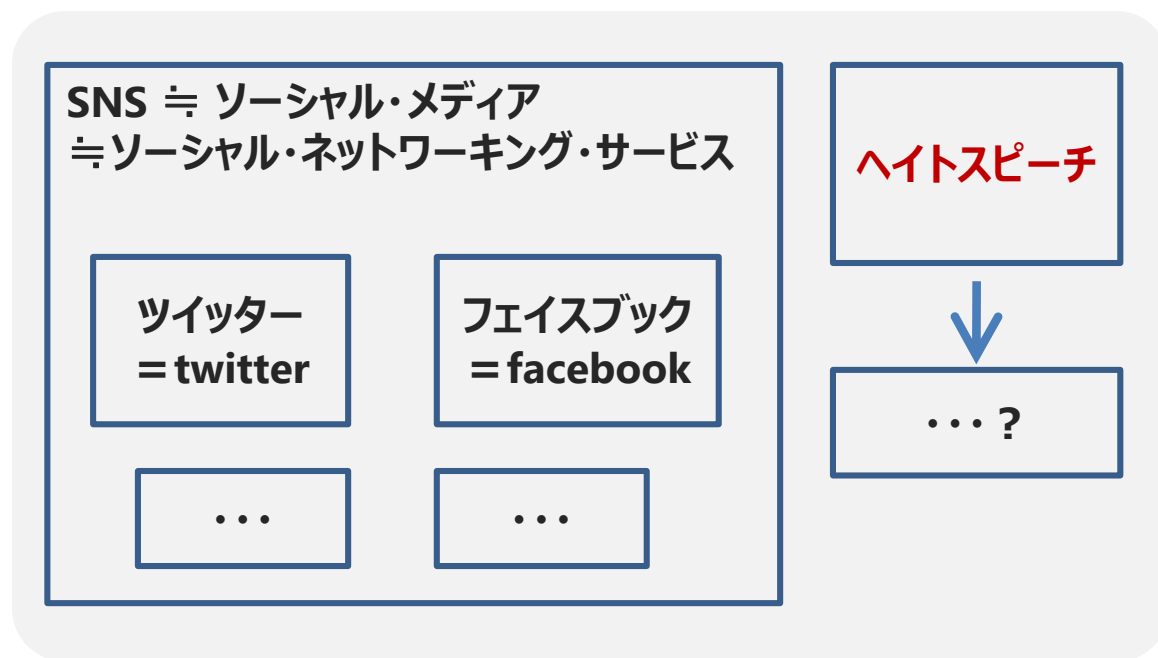
電子情報通信学会技術研究報告 = IEICE technical report : 信学技報 116(407), 7-12, 2017-01-19

大阪大学リソルバ

大阪大学OPAC

ポイント2：キーワードの検討

キーワード検索方式の場合、キーワードの選択がとても重要
同義語、類義語、上位/下位語を検討する



自分でうまく思いつかないときは、
参考図書などを使って探してみましょう。

ポイント2：キーワードの検討

百科事典や辞書類（冊子/オンライン）

例：JapanKnowledge Lib 複数の辞書・事典をまとめて検索できる

ー附属図書館Webサイトのクイックサーチ中「データベース」タブから

ー自宅から使うときは、附属図書館Webサイト右側の



から

関連する単語を視覚的に得ることができるツール

国立国会図書館「リサーチ・ナビ」

<https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

検索結果「キーワード」タブから関連キーワードとマップを得られる

科学技術振興機構(JST)「シソーラスmap」

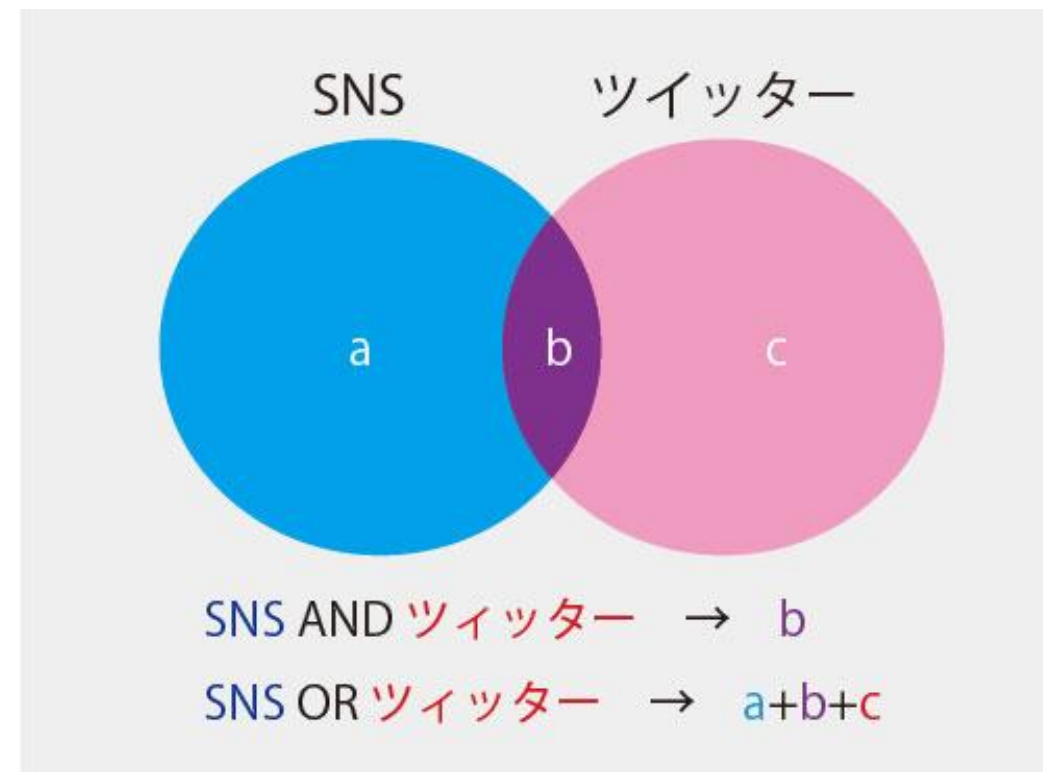
<https://thesaurus-map.jst.go.jp/>

科学技術分野の専門用語を中心に

ポイント3：論理演算（AND/OR など）

種類	CiNii Articlesでの入力方法
AND 検索	SNS△ツイッター 「SNS」と「ツイッター」両方の キーワードを含む資料を検索
OR 検索	SNS△OR△ツイッター 「SNS」もしくは「ツイッター」の どちらかのキーワードを含む資料を検索

※「△」はスペース（半角でも全角でもOK）



ポイント3：論理演算（AND/OR など）

キーワード検索方式

不要な論文のヒットは少なくなるが、必要な論文も漏れてしまう恐れ

OR検索を有効に使用する

ポイント2で得た同義語、類義語、上位/下位語をOR検索で活用する
より漏れが少ない形での検索ができる

データベースによって、

- ・使用できる論理演算の種類
 - ・その論理演算の入力方法
- は異なります。

新しいデータベースを使う時は、ヘルプを確認してみると良いです。



検索例題を実際にやってみよう

検索例題：

SNSとヘイトスピーチの関係性についての先行研究調査

—対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみ

—使用するデータベースはCiNii Articles

<https://ci.nii.ac.jp/>

- ・検索式の中の「△」はスペース。半角でも全角でもOK。
- ・CiNiiでは「・」は無視されます。「ヘイトスピーチ」と「ヘイト・スピーチ」の検索結果は同じです。
- ・CiNiiでは()で囲んだ箇所はグループとなって、検索式上で優先されます。
- ・ヒット件数は2020年9月18日時点

検索式①「SNS△ヘイトスピーチ」



論文検索 著者検索 全文検索

SNS ヘイトスピーチ

検索

すべて 本文あり

詳細検索

検索例題を実際にやってみよう

改善策の検討

- ・件数が明らかに少ないので、「SNS」の同義語、類義語、上位/下位語を検討
- ・同義語として、「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」と「ソーシャル・メディア」
- ・とくに広く使われている「SNS」としてtwitterとfacebookを下位語に想定。もれなく探すため、日本語表記と英語表記を両方キーワードに入れる。

検索式②

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△ヘイトスピーチ

6件

「SNS」のキーワードの広げ方としては悪くなさそうだが…

- ・検索式「SNS」→約6,000件
- ・検索式「SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook」→約11,000件と倍近く増加

検索例題を実際にやってみよう

改善策の検討

- ・「ヘイトスピーチ」側のキーワードを広げることを考える
- ・自分でうまく関連キーワードを思いつかないときは、ポイント2で紹介した参考図書やツール類を使用
- ・国立国会図書館リサーチ・ナビで「ヘイトスピーチ」を検索し、キーワードのマップを見たところ、「差別」「人権」「表現の自由」「言論の自由」といった関連キーワードを入手できた。

検索式③

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△(ヘイトスピーチ△OR△差別△OR△人権△OR△表現の自由△OR△言論の自由)

50件

検索例題を実際にやってみよう

改善策の検討

- ・ 検索結果の論文タイトルを眺めていると「規制」も関連キーワードとして使えるのではないかと思われた。
- SNSを規制する議論が起こる背景の1つとしてヘイトスピーチがあるのではないか、という推測。

 **表現の自由の保障切り下げを危惧：ネットでの誹謗中傷を巡るSNS規制の論点**
森 亮二
新聞研究 (827), 46-49, 2020-08
大阪大学リゾルバ 大阪大学OPAC

 **ドイツのSNS対策法：法規制と表現の自由 (特集 ネット上の人権侵害：法規制と表現の自由)**

検索式④

(SNS△OR△ソーシャルネットワーキングサービス△OR△ソーシャルメディア△OR△ツイッター△OR△フェイスブック△OR△twitter△OR△facebook)△(ヘイトスピーチ△OR△差別△OR△人権△OR△表現の自由△OR△言論の自由△OR△規制)

106件

データベース検索で心がけると良いこと

予測と検証

自分の直感的な気付きを大切に。

「このキーワードでこれだけしか文献が無いのはおかしい」

→上位/下位語、類義語、同義語を探してみる（ポイント2、ポイント3）

「このキーワードでこんなにたくさん文献がヒットするのは何か変だ」

→検索結果を眺めて、自分の予期しないヒットの仕方をしていないか確認。

キーワードを変更したり、AND検索で検索結果を絞り込んだり。

検索式と件数などを記録しておく

記録しておくことで、検索式の調整が簡単に

しばらくしてから、先行研究調査を再度行う際にも便利

選別作業：検索式の検討が終わったら

検索結果一覧から自分の目で選別

論文のタイトル、抄録（あれば）、掲載された雑誌 などをもとに

無理に検索式で絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうことがある。100～200件程度ならば、人目でじゅうぶんに選別可能。

「すぐに入手できるかどうか」は選別基準に入れないこと

データベース画面上で見るとPDFファイルがあるものに引っ張られがち

→いったん検索結果を印刷したり、エクセルのリストに出力したりするほうが、まんべんなく目を通しやすい

選別作業が完了して初めて入手作業へ進む！

具体的な入手方法についてはきちんとスタート②へ

V.文献データベースによる 日本語図書の研究調査

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

2021.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当



適切なデータベースの選択：図書

図書のデータベース≡蔵書検索システム

基本的には、所蔵しているかどうか / どこに所蔵しているのかを調べるためのもの
図書として出版されている先行研究の調査にも援用できる

所蔵している機関によって収録データベースが異なる

大阪大学の蔵書 → 「大阪大学OPAC」 ※各大学のOPACがある

国内の大学・研究機関の蔵書をまとめて → 「CiNii Books」

国立国会図書館 → 「国立国会図書館オンライン」

国立国会図書館+都道府県立図書館+政令指定都市立中央図書館 → 「NDLサーチ」

都道府県内の公共図書館をまとめて → 「カーリル」「大阪府立図書館横断検索」等

海外の図書館 → 「WorldCat」等

適切なデータベースの選択：図書

日本語の**学術書**の検索については、基本的には以下2つで足りる

CiNii Books	国内の大学・研究機関の図書館所蔵資料がほとんど収録されている。
国立国会図書館オンライン	国立国会図書館法によって、国内で出版された出版物は国立国会図書館への納入義務があるため、国内で出版された図書のうちかなり多くを所蔵している。 *ただし、時代を遡っていくと収集率は下がっていくことに留意

図書を検索するときのポイント

書名・著者名に含むキーワードでしか検索できないと想定する

多くのデータベースにおいて、これが基本

自分の入れたキーワードと文字列として一致するかどうか

キーワードの検討がとても大切

日本語論文調査の章でも触れた、同義語や類義語を検討する

とくに大切なのが「**上位語**」（ある概念を含むより広い概念）

←図書は中身の分量が多いので、自分で思いつくキーワードよりも、広い概念が書名に入っていることが多い

CiNii Booksについて

基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できない

「図書・雑誌検索」タブで、
目次が検索できるのはほんの一部の資料のみ
AND, OR検索方法はCiNii Articlesと同じ



<https://ci.nii.ac.jp/books/>

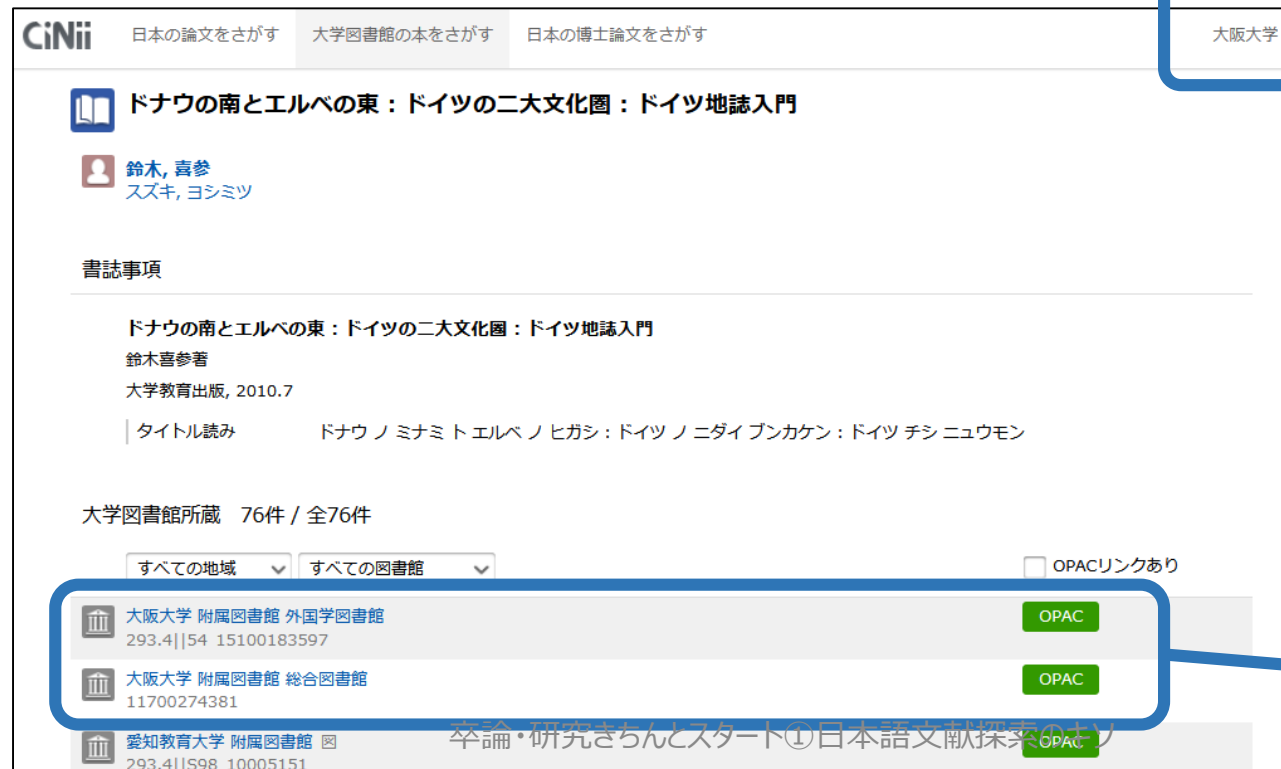
「内容検索」タブに切り替えると目次や内容説明を検索できる資料が増える

ただし、あくまで目次データを持っている資料のみ（全ての資料では無いので注意！）

[参考] CiNii Booksで大阪大学所蔵資料を確認しやすくする方法

CiNii Booksを「大阪大学」モードにすると、大阪大学所蔵資料が一番上に表示されて便利

キャンパス内からであれば、自動でこのモードになる



大阪大学の
所蔵資料

[参考] CiNii Booksで大阪大学所蔵資料を確認しやすくする方法

新規登録 ログイン English

キャンパス外から

画面右上の「ログイン」

所属機関の学内認証システムでログインする方 GakuNin
(Institutional Login for institutions in Japan.)

所属機関:
大阪大学
大阪市立大学
京都府立医科大学
龍谷大学
奈良女子大学
大阪大学
近畿大学
和歌山大学
滋賀大学
吉野大学

ログイン (login)

大阪大学
学術認証フェデレーションログイン

Login to CiNii
大阪大学個人ID (Personal ID)
パスワード (Password)
ログイン (login)

KOANやCLEと
同じIDとパスワード

国立国会図書館オンラインについて

基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できない

目次が検索できるのは一部の資料のみ

AND, OR検索方法はCiNii Articlesと同じ

<https://ndlonline.ndl.go.jp/>

目次も検索したいときは、資料種別を絞り込まないこと

2つのデータベースで目次データの主な収録年代が違います。

- ・CiNii Booksの「内容検索」は1986年以降が主
- ・国立国会図書館オンラインは1968年頃までが主



OPACでの先行研究調査では不十分か

あくまで大阪大学で所蔵している範囲での検索となる

大阪大学で所蔵していない図書でも、重要な先行研究が存在する可能性は当然ある

大阪大学の図書館で所蔵している資料

→基本的にCiNii Booksに登録されている

そのため、CiNii Booksを検索すれば、大阪大学OPACの中身も基本的に含んでいる

例外：電子ブック / 冊子でも古い資料や一部の研究室所蔵資料はCiNii Booksに未登録

OPACも書名・著者名・出版社名などでしか基本的に検索できません
検索仕様は以下のとおりで、()での掛け合わせはできません。

AND検索 SNS△ツイッター

OR検索 SNS△+△ツイッター

※「△」はスペース。半角でも全角でもOK。

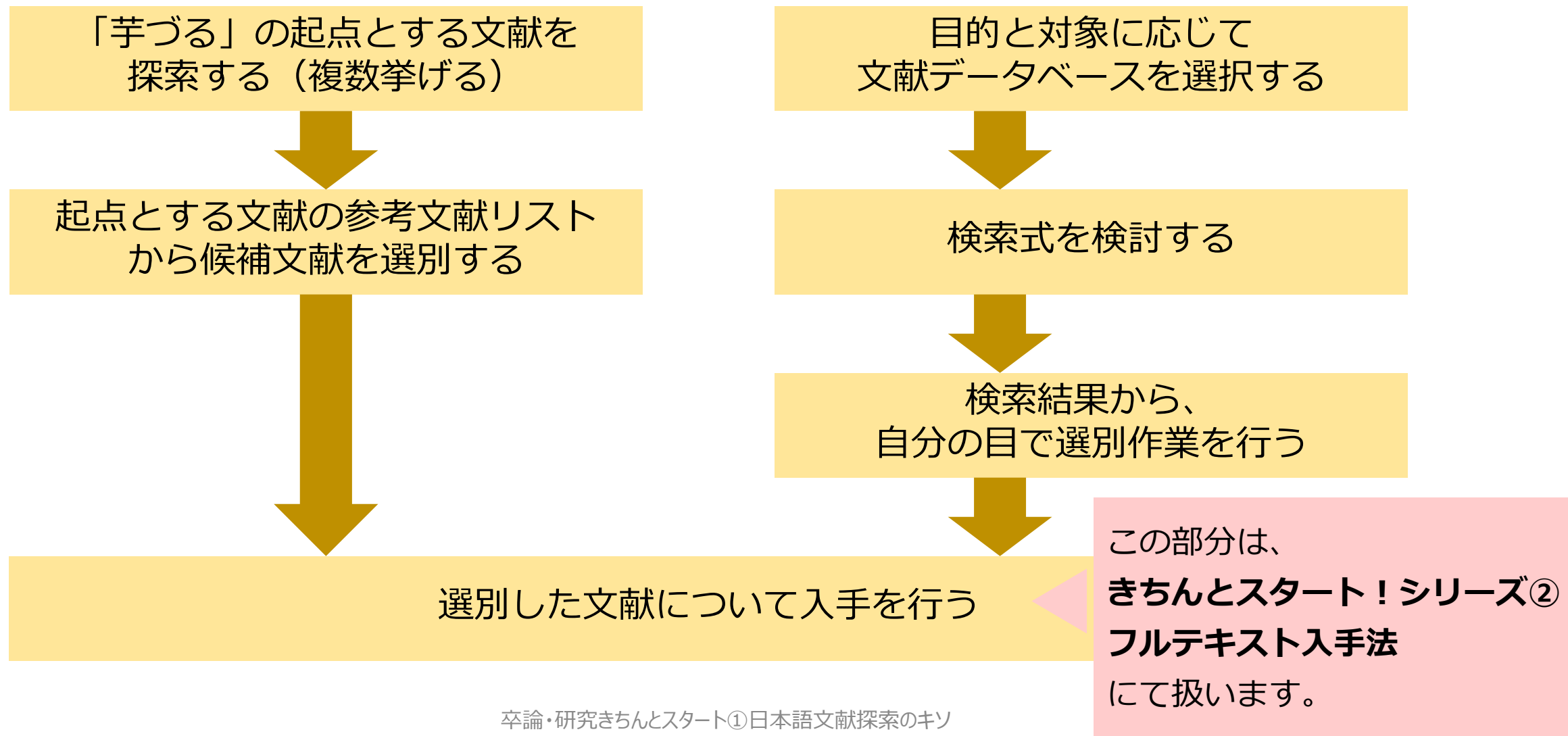
※「+」は必ず半角で入力



まとめ



先行研究調査での文献探索～入手までの流れ（おさらい）



ご相談ください

総合図書館参考調査カウンター [平日9:00～17:00]

sogo-ref@library.osaka-u.ac.jp

適切なデータベースの選択 / それぞれのデータベースの使い方
検索式やキーワードの検討 etc.

対面・メールでの相談の他、オンライン相談も受付中です。

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/gakunai/sougou/reference/>



参考文献リスト

明石芳彦(2018)『社会科学系論文の書き方』ミネルヴァ書房.

秋山哲雄, 田中大喜, 野口華世編(2014)『日本中世史入門：論文を書こう』勉誠出版.

味岡美豊子(2009)『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房.

白井利明, 高橋一郎(2013)『よくわかる卒論の書き方』第2版. ミネルヴァ書房.

藤田節子(2007)『キーワード検索がわかる』筑摩書房.

村上紀夫(2019)『歴史学で卒業論文を書くために』創元社.

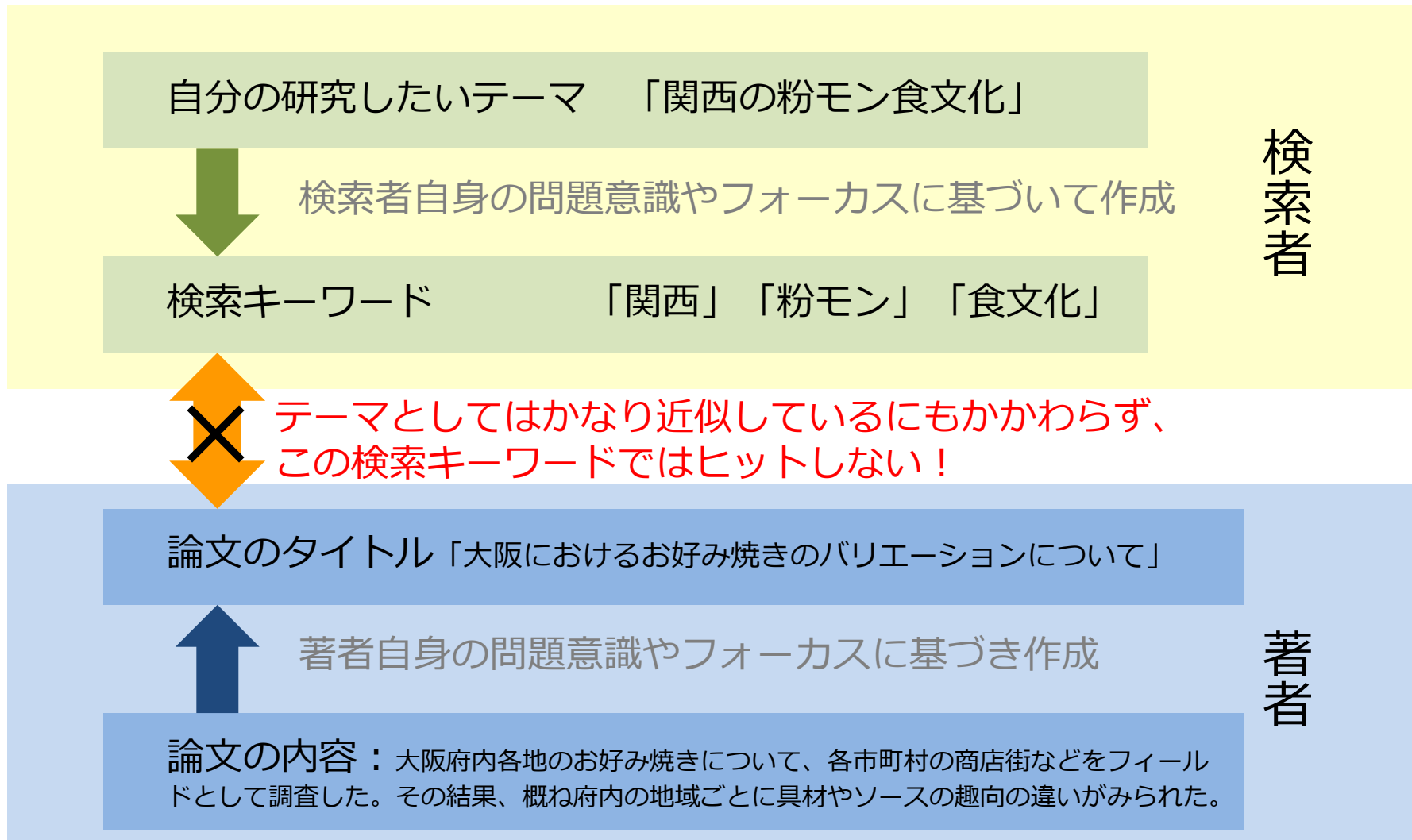
補遺： シソーラスを備えた データベース

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

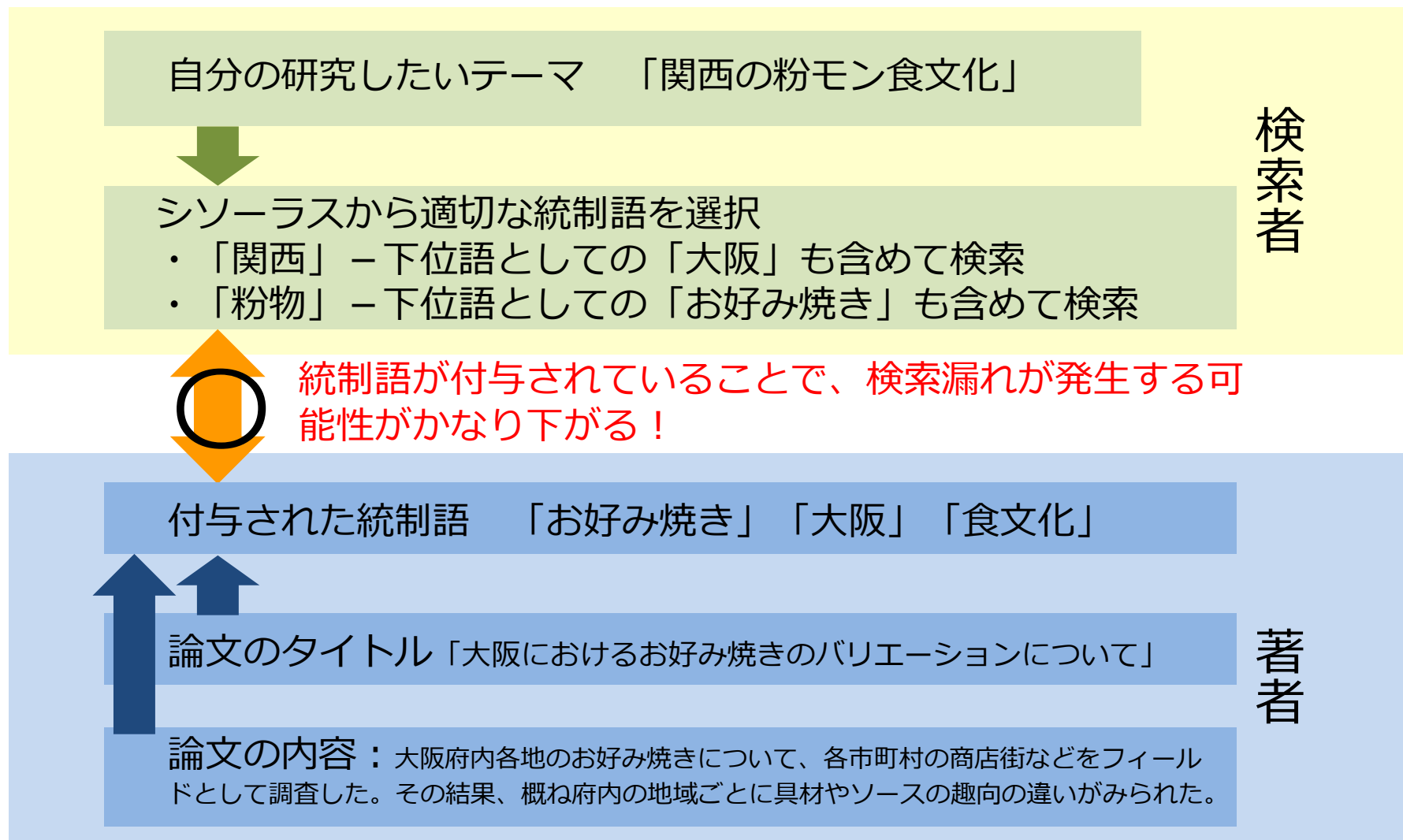
2021.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当



シソーラスの無いデータベースの キーワード検索の仕組み



シソーラスのあるデータベースの 統制語検索の仕組み



シソーラスを備えたデータベースを利用するメリット

検索漏れが発生しづらくなる

概念ごとに使用することばを決めているので、同義語・類義語を検討する必要がない
下位語を含んだ検索が可能なデータベースも多い

【注意点】 検索に使用する統制語を選択するのは自分

←統制語の選択を用心して行わないとシソーラスのメリットを発揮できない

先行研究調査はできるだけ「漏れなく」検索したいので、
シソーラスを備えたデータベースを使うことがおすすめ

シソーラスを備えたデータベースの例

日本語論文のデータベース

J-Dream III（自然科学・工学）、医中誌web（医学）

日本語論文のデータベースでは、残念ながら、CiNii Articlesなどシソーラスを備えていないデータベースがほとんど

海外論文のデータベース

特定分野型のデータベースは、シソーラスを備えているものが多い
（シソーラスの付与について、精度はさまざま）

新しく文献データベースを使い始めるときは、
シソーラスを備えたデータベースかどうか確認してみるのが
おススメです。

